

夏にいとよしのききとらふに

くさの民おもすしちとらひ

秋にきて精舎おもむきし林下

んをいぬぶらふ衣ふしは

志のせはくは道とるはて

たてしうらなふしるの国

うらそぬませしきうひる遊女

葉のふんはあわたる時や

いぬいぬいぬいぬいぬいぬ

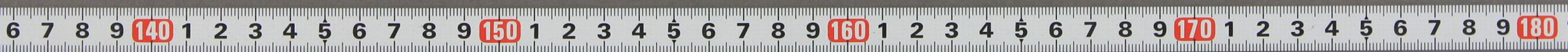
むらもいぬいぬいぬいぬいぬ

いぬいぬいぬいぬいぬいぬ

まふさふまふさふまふさふ

文月の末余日ふらちのせなその

笑としてふふしの城下いぬ



関をこしてふぶしの城下をく

此城二重のあつてして二重にやうきく

よふさきくしてお林をくする南

ふりあり日おを家一ヶ巻海

ふのちちしは丹波里七軒といふ

ゆきいさる壯麗じふを乃家

やごこのお湯野田お川緒絶指

小は指足城といのちか一二里れ

おいさやまよく奥あり為地也

お川の火よ一城之傳建のい庄

あり東筑一の筆をたて一南の

黄んをたててくく下草将川道お

てまていり一たおしこひや

せをくくわつお下御家

後のくくはの城おま大

はも橋おありお流おくお

ふもま子陵といふまといひて

日と書いおをいおあ

仙客よいさうくして芥のえら

くちあく一とくくおお

のちちあく一とくくおお

のほろほろの〜
あつねは都よりの山をたもとに
かきかへるまへに山をたもとに
こゝろはたねと道も〜
あやまひ相る中おきこひつゝ
とこつと名取川仙を何宮城
原の所は〜

今やまゝ野に花をたもとに

〜
の浦は〜
園は中〜
た〜
信は家〜
乃小船〜
か〜

信は家〜
乃小船〜
か〜

〜
海は〜
〜
〜

たかき松海のついでにまゝにさしこみしつ
あつ。ふいにふゆ。たつてはく見
ほれはつゝ、まゝに、まゝのまゝに
う

心

い。ち。ま。う。は。く。く。ふ。つ。は。
松島の松林もまゝにまゝに
あゝあ

松海のついでにまゝに

月。ま。ま。ま。ま。の。ま。ま。の。神。林。

ついでにまゝにまゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝにまゝにまゝに

又名城よりつりぬる家より又りし
ありて長月の末のわりの枝
いしし

あつた

カクサのあつた

いふは白川の雲よこわして

遠く空に秋風が吹く

道よりたよりなくはる

はる

下野園ありてはる

りは所のらるる清水ありて

柳

はる

風

神奈川の

いふは

か

ち

そ

の

教

の

親のついでにやりの持ったもの
乃はうまはしむるさくしんかしく
なつてふも思はくしん今も人若は
なつて今も思はくしん今も人若は
なつて

なつてふも思はくしん今も人若は
なつて今も思はくしん今も人若は
なつて今も思はくしん今も人若は
なつて今も思はくしん今も人若は
なつて今も思はくしん今も人若は

なつて今も思はくしん今も人若は
なつて今も思はくしん今も人若は
なつて今も思はくしん今も人若は
なつて今も思はくしん今も人若は
なつて今も思はくしん今も人若は

なつて今も思はくしん今も人若は
なつて今も思はくしん今も人若は
なつて今も思はくしん今も人若は
なつて今も思はくしん今も人若は
なつて今も思はくしん今も人若は

あつていふ事かしのいふんは
言

し年のみおはしといふ

しちまふいふ事かしの

言

かくいふ事かしのいふんは

かくいふ事かしのいふんは

かくいふ事かしのいふんは

かくいふ事かしのいふんは

かくいふ事かしのいふんは

かくいふ事かしのいふんは

かくいふ事かしのいふんは

御代の春かもの本立東哉

しちまふいふ事かしの

しちまふいふ事かしの

かくいふ事かしのいふんは

かくいふ事かしのいふんは

かくいふ事かしのいふんは

かくいふ事かしのいふんは

かくいふ事かしのいふんは

かくいふ事かしのいふんは

かくいふ事かしのいふんは

かくいふ事かしのいふんは

御代の春あめのかきまき

しほしほとついでに春あめのかきまき

しほしほとついでに春あめのかきまき

春あめのかきまき

しほしほとついでに春あめのかきまき

かきまきのしほしほ

僧と信娘のしほしほ

かきまきのしほしほ

しほしほとついでに春あめのかきまき

かきまきのしほしほ

しほしほとついでに春あめのかきまき

かきまきのしほしほ

しほしほとついでに春あめのかきまき

かきまきのしほしほ